

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「楽しいロータリーで  
つながろう」

高田ロータリー今年の  
スローガン

「地域、次世代と共に、  
明るく!楽しく!!朗らか!!!に  
奉仕を実践しよう」



2019～2020年度

国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニー  
2560地区ガバナー 大谷 光夫  
高田ロータリー会長 高坂 光一  
幹事 高橋 正彦

事務局:新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス: takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場: デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
加藤 公一 宮川 大樹 藤林 陽三 山田 守  
木村 隆

## 第25回例会 ■ 1月24日(金)

No.25

### 敬 迎



2019-2020年度  
国際ロータリー第2560地区  
**大谷光夫ガバナー**  
1月31日公式訪問

### 直々前会長挨拶 ● 橋詰 敏一



今日は、高坂会長がどうしても都合が悪く、また、牧野直前も都合付かないとの事、古い私 橋詰が挨拶致します。しばらくお付き合いください。

令和2年、子年も明けて早や3週間を過ぎました。早いものです。今年、年初10年後にどうなっていたいか、どのようにならねばならぬか未来予想図を思い描いてみました。少子高齢化が進み、2030年は高齢者は緩やかに減少しつつも、若年層が激減し始めています。私共の建築・建設業界も若手の職員確保が更に厳しくなっているだろうと考えます。その対策として業界が目しているのが「BIM」(ビルディングインフォメーションモデリング) = 設計から施工現場まで一貫したデータベースを活用し、建築業界の業務効率化と

新たな空間創造を可能とするツールです。3次元で全て表現し、積算、コストまで瞬時に対応します。当社もその準備を少しずつですが始めようと考え、Windows7のサポート切れ(1月14日)を期に、Windows10への移行と3次元CADの導入を決断しました。今日の山崎会員の卓話にも出てくると思いますが、通信技術も5Gだ、その先の6Gだと世間は我々の背中を押してきます。何かと騒がしい10年になると思います。

今日は、オリンピック開会式の7月24日まで丁度6ヶ月(182日)です。皆さんは観戦チケットは申し込まれましたか?私はビール片手にテレビ観戦です。ボランティアにも申し込みませんでした。(反省!)皆さんは、このオリンピックに何を期待しますか?私は、このスポーツの祭典後、この日本がより世界に開かれた多様性を認めあう成熟した社会になる事のキッカケとなるよう期待します。

### 出席報告

出席率 96.30%

## 委員会報告

社会奉仕委員会——2/7オークションのご案内

## 会員インフォメーション

堀井靖功君——2/24前島密翁没後100年講演会

のご案内

## 幹事報告

配布物：週報No.24、ロータリーの友1月号

回覧物：赤い羽根共同募金運動へのご協力のお礼

報告：1月31日 ガバナー公式訪問

## 会員卓話 急速に変化するICTの技術革新



はじめに一般的データ通信の利用形態の変化についてです。2000年代はPC中心でしたが2010年代には昔では考えられなかったスマートフォン・タブレットの隆盛があり既に定着しました。それが2010年代後半からモノのインターネット（IoT）IoT（Internet of Things）がますます便利に高度化されそこから得られるデータがビッグデータとして活用されるようになりました。

そこで今回は弊社のICT技術を活用した地域活性化の取り組みを私が新潟県にて取り組んでいる事案を中心にご紹介したいと思います。

### 1. 農業分野

農業におけるICTの活用にて弊社が取り組んでいるのは人手不足の補完（稼働削減と効率化）・品質向上及び将来的には次世代施設園芸システムの構築です。そのためにNTTアグリテクノロジという会社を立ち上げ先進的なオランダ式園芸農法を取り入れた実証ファームをまずは山梨県に作り、これから様々なチャレンジをしていきます。

新潟でも私の方で関川村スマート農業実証プロジェクトを立ち上げ課題であります中山間地域での水稻栽培における高単価・6次産業化への発展に取り組んでいきます。

具体的には①作業省力化・低コスト化・水位センサーによる水管理の省力化・ドローンによる効

NTT東日本新潟支店 山崎 公一 君

率的な農薬散布・ラジコン草刈機による急傾斜法面の除草作業の省力化・マイクロ水力発電によるICTに必要なエネルギーの確保・スマート農機シェアリング②高品質米の生産・ドローン撮影リモートセンシングによるAI生育診断・診断結果マップと連動したブロードキャスト、ラジコンヘリによる効果的な施肥・自治体GISとの地図データ連携③乾田直播体系の確立・中山間地域特有の変形田におけるスマート農機の実用性検証・土壌診断機の導入による土壌評価

### 2. 産学官連携とAIラボ

弊社では実社会データ・最先端技術を有する産官学が一体となり、AI・IoT、エッジコンピューティング等の開発／実証ができる共創ラボを提供する事を始めました。今は東京蔵前にスマートイノベーションラボを設立しAI開発・利用を地域活性化に役立てるためオープンリソースとして提供しております。そこで新潟大学ビッグデータアクティベーション研究センターと弊社のスマートイノベーションラボ（当初は東京、今後は新潟版ラボ）を連携させ、産学官金が連携するAI・BDによる地域課題解決実証環境を構築する取り組みに着手しております。その第一弾がルレクチェの外観品質検査です。また佐渡里山未来会議にも参画し中山間地域の保全共生にICTの活用を検討しております。今後も様々な地域活性化に向けたチャレンジを行なっていきたく思います。